

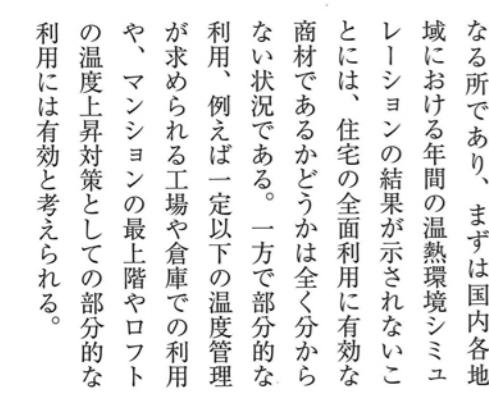
測定対象：仮設小屋
測定地点：中国寧波
測定日時：2018年7月28日 最高外気温 42.3°C

	未施工	施工済	温度差
屋根表面温度	67.5°C	38.5°C	-29.0°C
室内温度	50.8°C	36.0°C	-14.8°C



測定対象：自動車
測定地点：中国寧波
測定日時：2019年4月15日 外気温 22°C

	無塗装	塗装済	温度差
車内温度	47.5°C	28°C	-19.5°C



従来型の遮熱材や、断熱材は、太陽光を周囲に反射したり、あるいは物体への熱伝導を遅らせる

CEOの経営方針・戦略や製品開発の方向性などについて力を借りて、指導を賜りたいとのこと。松本CEOは一定量を販売して儲けもしつかり出していきたいとビジネスとしての意欲を語り、楊教授も松本氏と一緒に協力し、ビジネスとしてやるからにはしっかりと儲けていきたいと意気投合した。

大気中の温度よりも約10度低くなることが実験で分かっている」とのこと。

104

ラディ

R

 adi•Cool

冷却シートで100万m²

ガバナンスの鬼が参入

今年は日産の不正融資疑惑とい

が経済分野のメディアに対しても大きなインパクトをもつて迎えられたようだつた。

ガバナンス（持ち株会社の統治）のありようが問われる年となつた。そもそも持ち株会社制度は1997年、日本企業の国際競争力をつけるということを目的として、戦後の財閥解体以降、禁止されていた持ち株会社制度が、解禁されたという経緯がある。ドメコティック（国内的）な産業と思われがちな住宅や建設資材の分野でも、国際的にオープンで透明性の高いガバナンスが求められる時となってきた。

最初の目標は100万^{m²}同商品の最大の特色は、「放射冷却ができる」ということである。つまり、日本市場で10年ほど前から普及がはじまり、それなりの営業もある「遮熱フィルム」とは全く異なる分野の商品ということになる。

米・コロラド大学の物理学者で
ラディクールジャパン(株)取締役、
製造開発チーム責任者の楊榮貴教
授(写真右)の説明によると、「R
a d i · C o o l 放射冷却技術」
とは、物質の熱エネルギーを特定
波長に集約して、宇宙に放出する
ことで、物体の冷却を可能にして
おり、エネルギーを使わずに冷却
できるので、例えば同技術の応用
製品であるフィルムを家にはつた
場合、空調のエネルギー効率向上
が期待できる。従来品の断熱材で
は、大気中の温度と同程度である
が、「R a d i · C o o l 放射冷
却技術」を応用したフィルムでは

画期的な冷却性能

當者として知られている松本見庄（上写真中央）をCEOとしたラディカルジャパン（2010年2月設立）が6月11日（火）に記者会見を行つた。会見での印象としては、新商品「Radio-Com」

る。例えば、住宅の屋根に設置すると建物内の冷却効果を高めることができ。太陽光パネルに設置すれば発電効率や寿命を向上させることができる。